

平成30年度 カラス対策調査結果について

平成31年3月
富山市環境部環境保全課

1. 調査目的

城址公園周辺は、市内中心にある数少ない樹林で、貴重な市民の憩いの場ですが、大集団のカラスのねぐらとなっており、糞害などの被害が見られることから、カラス対策が重要な課題となっています。

このため、平成17年度から「カラスの生息数調査」を、平成18年度からは「カラス捕獲対策」を、さらに平成21年度においては「カラス追い払い対策」を実施しています。

城址公園周辺のカラス生息数調査は平成17年度より継続的に実施し、生息数の変化等を把握しています。今年度も捕獲の効果やカラスの生息数を確認するため、調査を行いました。

2. 城址公園周辺のカラスの生息調査結果

図1に示す範囲における調査の結果、ねぐらとして「調査範囲」に集まってくるカラスの数は、平成31年2月1日の調査で2,807羽、2月14日の調査で3,333羽であり、平均で3,070羽でした。昨年度の2回の調査の平均値と比較すると541羽の減少といえます。

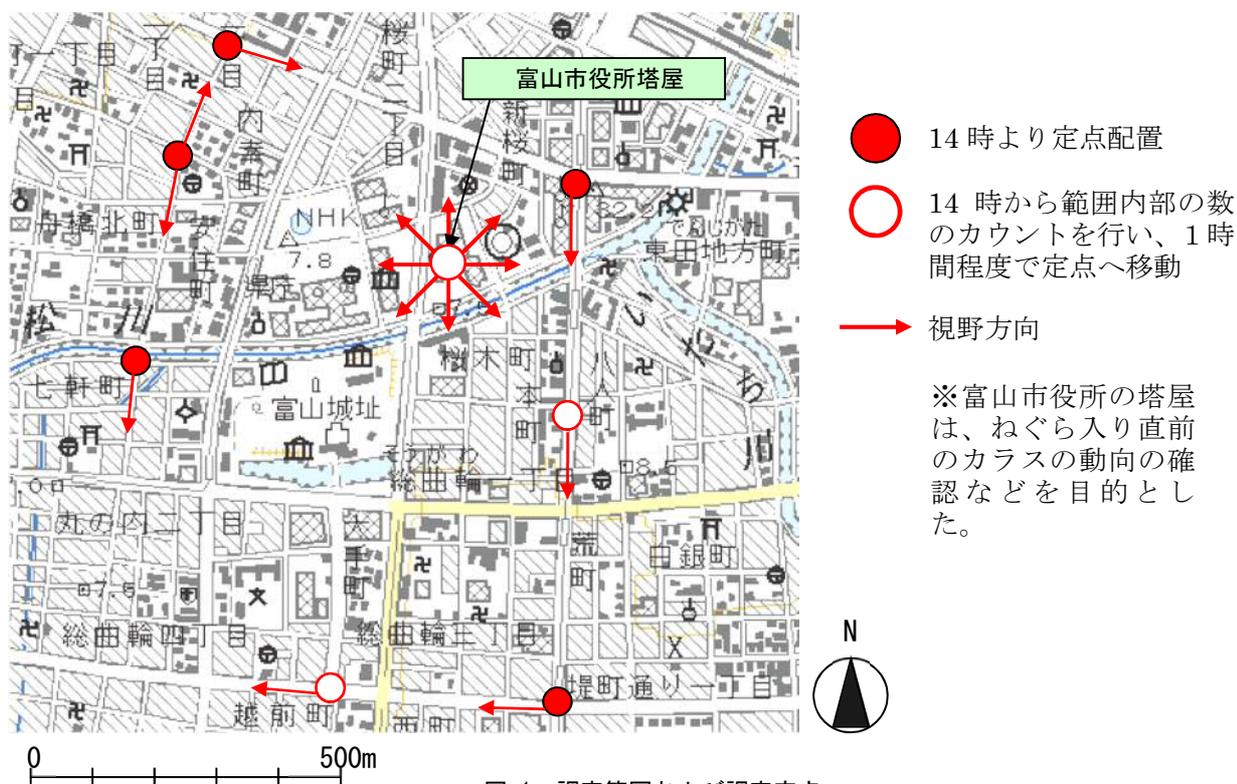


図1 調査範囲および調査定点

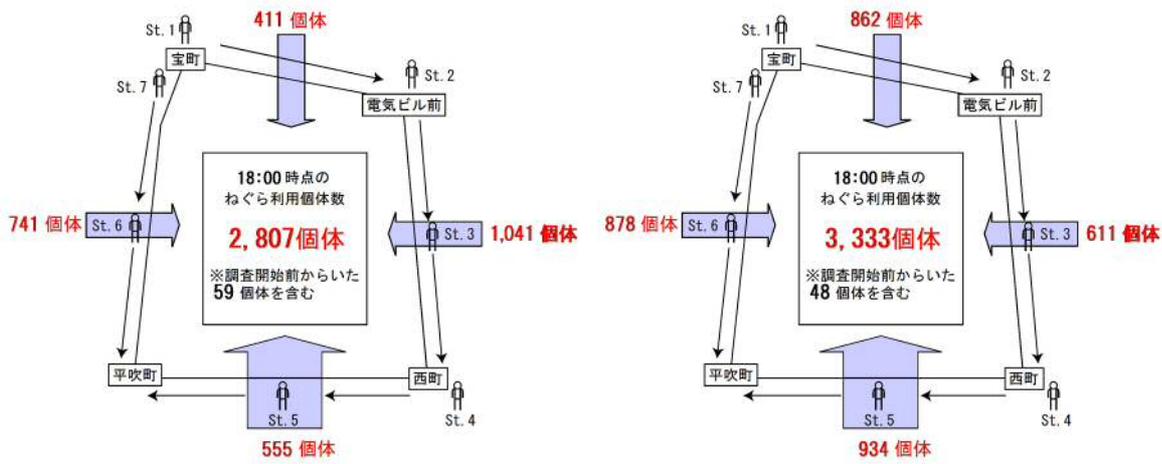


図2 ねぐら入り個体数の調査結果（左：平成31年2月1日、右：平成31年2月14日）

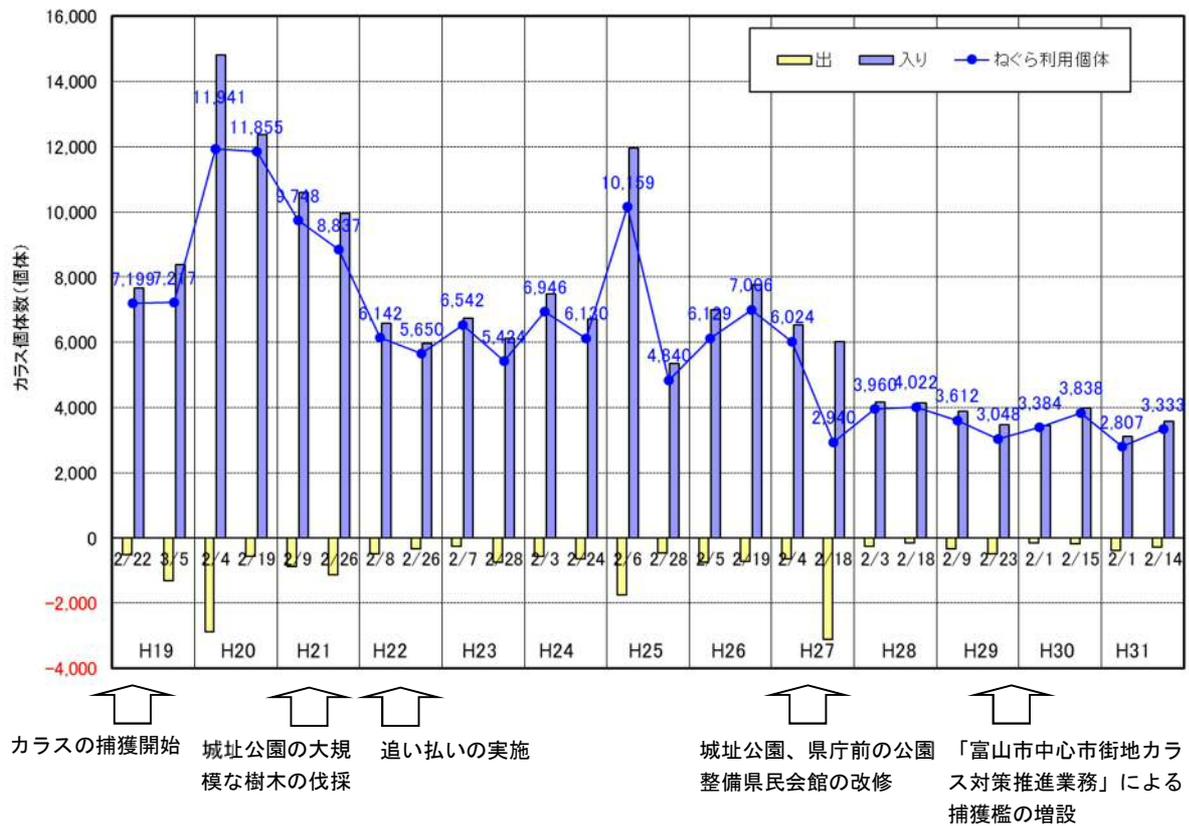


図3 ねぐら入り個体数の経年変化

3. カラスのねぐら利用状況

平成 31 年 2 月 1 日の調査では、県庁及び県庁前公園周辺と富山市役所及び城址公園周辺に分けて羽数を計測しました。

調査の結果、調査範囲全体で 2,807 羽のうち県庁及び県庁前公園周辺で 2,521 羽、市役所及び城址公園周辺で 286 羽確認されました。



4. カラス捕獲結果

平成 18 年度より、城址公園周辺のカラスの数を減らす対策として、檻によるカラスの捕獲を行っています。また、平成 21 年度からは採餌場における捕獲も行っています。今年度は昨年度に引き続き檻による捕獲を実施しています。

富山県内に生息するカラスは、ミヤマガラス、コクマルカラス、ハシブトカラス、ハシボソカラスの 4 種ですが、捕獲しているカラスはハシブトカラスとハシボソカラスの 2 種です。

檻による捕獲 実施期間：平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月
 実施箇所：城址公園内に 6 基
 大山フラワーセンター（大山地区）に 1 基
 浜黒崎浄化センターに 1 基
 旧図書館屋上に 1 基
 市役所屋上に 1 基
 商工会議所屋上に 1 基
 A ビル屋上に 1 基
 県庁屋上に 1 基
 農協会館に 1 基
 県民会館に 1 基
 県庁前公園に 1 基

表2 今年度のカラスの捕獲状況

捕獲数	檻による捕獲数	備考
内訳	2,137羽	
城址公園	1,147羽 (53.7%)	5月18日から檻を3基から4基に増設 10月12日から檻を4基から5基に増設 2月19日から檻を5基から6基に増設
大山地区	727羽 (34.0%)	
浜黒崎浄化センター	24羽 (1.1%)	4月1日から6月8日まで捕獲実施 10月3日から12月24日まで捕獲実施
旧図書館屋上	35羽 (1.7%)	8月31日に檻を撤去
市役所屋上	102羽 (4.8%)	
商工会議所屋上	12羽 (0.6%)	7月31日に檻を撤去
Aビル屋上	25羽 (1.2%)	
県庁屋上	26羽 (1.2%)	
農協会館	35羽 (1.6%)	7月7日から捕獲開始
県民会館	1羽 (0.0%)	12月19日から捕獲開始
県庁前公園	3羽 (0.1%)	2月21日に檻を撤去

※平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの捕獲データである。

5. まとめ

平成30年度の生息数は2回の調査の平均で約3,000羽でした。昨年度は約3,600羽であったことから、約600羽減少したことになります。

年度	城址公園	大山地区	
平成30年度	<p>総捕獲数：1147羽</p> <p>■ハシブトガラス ■ハシボンガラス</p>	<p>総捕獲数：727羽</p> <p>■ハシブトガラス ■ハシボンガラス</p>	
	<p>浜黒崎浄化センター</p> <p>総捕獲数：24羽</p> <p>■ハシブトガラス ■ハシボンガラス</p>	<p>旧図書館屋上</p> <p>総捕獲数：35羽</p> <p>■ハシブトガラス ■ハシボンガラス</p>	<p>市役所屋上</p> <p>総捕獲数：102羽</p> <p>■ハシブトガラス ■ハシボンガラス</p>
	<p>商工会議所屋上</p> <p>総捕獲数：12羽</p> <p>■ハシブトガラス ■ハシボンガラス</p>	<p>Aビル屋上</p> <p>総捕獲数：25羽</p> <p>■ハシブトガラス ■ハシボンガラス</p>	<p>県庁屋上</p> <p>総捕獲数：26羽</p> <p>■ハシブトガラス ■ハシボンガラス</p>
	<p>農協会館屋上</p> <p>総捕獲数：35羽</p> <p>■ハシブトガラス ■ハシボンガラス</p>	<p>県民会館屋上</p> <p>総捕獲数：1羽</p> <p>■ハシブトガラス ■ハシボンガラス</p>	<p>県庁前公園</p> <p>総捕獲数：3羽</p> <p>■ハシブトガラス ■ハシボンガラス</p>

6. 今後の課題

(1) カラス対策効果の検証

平成20年度の生息数調査時に10,000羽以上いたカラスは約3,000羽まで減少しています。

これは檻や狩猟による駆除と公園整備や公園周辺での鳥除け対策などの効果と考えられます。

しかし、依然としてカラスによる糞害などの被害が発生しており、街なかを大群で旋回する姿は、市民や観光客に悪い印象を与えています。

本年度は、昨年に引き続き個体数を減らす対策として捕獲檻の増設を行い、「カラスが好むえさの種類や組合せを研究し、改良した」、「檻の中のおとりカラスを増やした」、「入口から出られないようにするための仕掛けである針金の形状を改良した」、「カラスの声を利用したおびき寄せを実施した」など工夫をしたことにより、捕獲数が最多となりました。それに伴い、生息数も減少し、過去最低となっているため、着実に効果がでていいるものと考えられます。

但し、捕獲による駆除をやめることにより、生息数はまた増加に転じるものと考えられるため、捕獲・駆除と餌資源の削減などの発生抑制対策を継続的に実施する必要があると考えられます。

(2) 生息数を減らすための対策案

今後の調査で個体数の減少が認められない場合、以下の対策が考えられます。

【ねぐら前集合場所における防鳥】

カラスのねぐら前集合場所となっている周辺の建物では、糞害や鳴き声による被害が発生しているが、対策を行っているビルはごく一部です。対策として、慣れが生じにくいテグスやスプリング等をビル屋上等に設置し、集合場所の質を低下させることで、カラスによる被害の低減できる可能性があります。

また、ねぐら周辺への檻の設置は、餌場での捕獲よりも捕獲効率が高いと考えられますので、カラスが就峙前に集まるビル屋上等に檻を設置することで個体数を減らせる可能性があります。

【追い払いの実施】

H28年度に実施された、県職員による追い払いでは、カラスの警戒心が強まり、一部のカラスは県庁前公園周辺からねぐらに移した可能性があります。平成21年度に追い払いが実施された際にも個体数減少効果があったことから、今後も追い払いを継続することでねぐらの分散化を図れる可能性があります。

【餌資源の削減】

富山市に生息するカラスの主な餌場は郊外の水田や畜産施設などと考えられますが、一部のカラスは繁華街の生ごみを餌としています。特に餌が不足する冬季は、人間の出した生ごみが貴重な餌資源となるため、ごみ出しのルールを徹底し、カラスの餌を減らすことで個体数が減少すると考えられます。

【広域自治体の連携】

生息数の減少に伴い、他のねぐらを利用していたカラスが市街地に集まってくる可能性があります。このため、周辺自治体とのカラスの餌場やねぐら、ミヤマガラスの渡来などの情報交換及び連携した対策が必要です。